

2020 東京五輪「選手村ビレッジプラザ」施設内覧会 (概要報告)

1. 日 時： 令和 2 年 1 月 30 日（木） 14：00～15：00
2. 場 所： 選手村ビレッジプラザ（東京都中央区晴海四丁目 107-7）
3. 参加者： 25 名（県内納材関係者、行政等）
4. 結 果：

1) 概要

静岡県が、県内林業・木材業者の協力のもと「県産森林認証材」を提供した「2020 東京五輪選手村ビレッジプラザ」について、大会組織委員会主催による「施設内覧会」が開催されたため、木材供給関係者として、参加した。

2) 施設の特徴

■施設概要

木造平屋建て 5 棟から成る分棟形式の建築物。延床面積は、5,500 m²。大会期間中の強い日射を緩和するため、切妻屋根の上に竹を並べている。構造的な特徴として、「レシプロカル架構、格子梁架構、トラスアーチ架構」の 3 つで各空間が構成されている。

所在地	東京都中央区晴海四丁目 107-7
工 期	令和 2 年 3 月末竣工予定
構 造	木造・平屋建て 5 棟
規 模	延床面積：約 5,500 m ²
主要用途	チーム歓迎式典会場、店舗、メディアセンター等
使用木材	・ JAS 規格の製材・加工品（全て森林認証材） ・ 全国 63 の自治体から約 1,300 m ³ （約 4 万本）を無償提供
設計施工	設計者：(株)日建設計 施工者：熊谷組・住友林業 JV
備 考	県内では、静岡県のほか、静岡市・浜松市・小山町が、木材を提供

■施設詳細

- ・「レシプロカル架構」（3 本の斜柱をツイストした柱組み）により、「間仕切り壁のない大空間」と「耐震性」を確保した。
- ・ A 棟～E 棟各棟の用途に適した空間を実現するため、3 種類の架構形式を用いた。
- ・ 静岡県の納材分（JAS 機械等級区分構造用製材）は、「格子梁、床材、裳階（もこし）」に使用された。

3) 関連画像

※民間事業者の広報媒体（SNS 等）への掲載は許可されていないため、イメージパースを掲載。



「外 観」



「内 観」

5. 関連記事：

- ・ 静 岡 新 聞 ～県産材 選手村を支える（令和 2 年 1 月 30 日付）
- ・ 日刊木材新聞 ～全国 63 自治体から木材リレー（令和 2 年 1 月 30 日付）

県産材 選手村支える

木材提供自治体
首長向け内覧会

2020 東京五輪パラ

2020年東京五輪・パラリンピック組織委員会が29日、東京都中央区晴海で建設が進む選手村の交流施設「ビレッジプラザ」に木

材を提供した本県の4自治体など全国63自治体の首長らを招いて施設の内覧会を開いた。

同プラザは5棟構成。各国選手団の入村式の会場になるほか、雑貨店やカフェなどの店舗、メディアセンターが配置される。全国

から寄せられた約1300立方メートルの木材で建

築し、多様性と調和を表現した。

県内からは県が41立方メートル、浜松市が32立方メートル、静岡市と小山町が

各1立方メートルを提供。正面玄関や会場などが配置される棟の柱や梁(はり)、床に用いら

れた。既に棟上げが終わり、現在は空調設備や照明などの内装工事を行っている。完成予定は4月。大会後は木材を各自治体に返却し、レガシー(遺産)として活用してもらう。

(浜松総局・豊竹喬、東京支社・内田圭美)

「浜松」「小山」 世界に発信

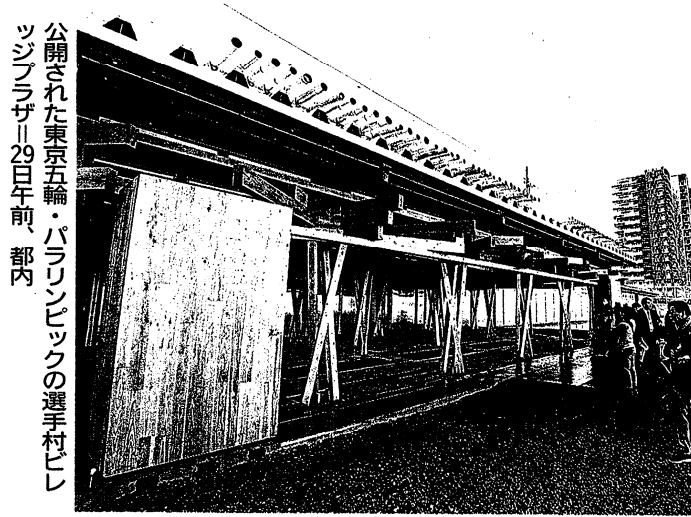
首長ら喜びと期待

東京五輪・パラリンピックの選手村「ビレッジプラザ」の内覧会に出

席した県内の首長からは、木材を通じて世界に自治体名を発信できる喜びや地域振興への期待の声が相次いだ。

持続可能な森林管理の国際基準「FSC認証」を取得した天竜材の流通拡大に力を入れている浜松市。鈴木康友市長は「浜松の文字がずっと並んで感無量。SDGs(持続可能な開発目標)やFSCへの注目度が高まっているので、大いに天竜材をPRできれば」と声を弾ませた。

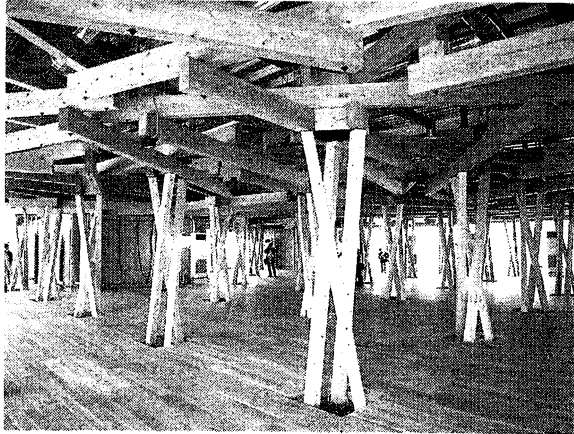
自転車競技のロードレースのゴール地点になる小山町の池谷晴一町長は「選手が最初に



公開された東京五輪・パラリンピックの選手村「ビレッジプラザ」29日午前、都内

入るビレッジプラザで「木使い」をしているので、競技会場でも「気遣い」をして、オール小山でもてなしたい」と語った。

全国63自治体から木材リレー ビレッジプラザ



3本柱をねじり、梁を掛けて壁のない空間を実現した(レシプロカル架構)

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の選手村ビレッジプラザがこのほど上棟し内装工事に入っており、29日に報道陣に公開された。全国の63自治体から集めた木材を使い、約6000平方メートルの木造平屋の建物を建設。大会終了後は解体して、刻印を付けて各自自治体に戻し、「オリンピックレガシー」として再利用する計画だ。主要部の架構は「レシプロカル架構」を採用。木材が支え合うような複雑な架構で、壁のない大空間を実現した。

レシプロカル架構で支え合う姿勢を表現

全国からプラザは、大会期間中の木材を合選手の生活を支える施設で、チームの歓迎式典などで使用し、花屋、雑貨店、カフェ、メディアセンターなどが入っている。建物には国産材を使用し、林業の再生、持続可能な森林の保全に寄与すること、多様性と調和を表現する。ビレッジプロジェクトでは、参加した自治体から木材を借りてレシプロラザを建築し、大会終了後は地方自治体に木材を返す。解体された木材は各地の公共施設などでレガシーとして活用する。

木材は120ミリの柱を3本、ツイスト(ねじった)形にして、金物にビスで留めつける。120×300ミリの梁を3段にかけて屋根構造を構成する特徴的なデザインの中に、格子梁架構とC棟の大スパン13・8メートルにはトラスアーチ架

構を採用した。3本ツイスト柱は右回りと左回りのねじりがあり、逆回転にすることで梁に応力を掛け、3・6メートルのスパンを飛ばしている。設計・監理は日建設計、施工は熊谷組・住友林業特定建設工事が担当した。

木材の出荷に当たっては、各地の自治体が出荷式を開催しオリンピックへの参画をアピールした。構造材は120ミリの角をベースに、床等には105ミリの角を並べるなど、一般流通材サイズの木材を多用。解体して参加自治体に戻した後も、再利用しやすい寸法体系を採用している。

木材の使用量は全体で1300立方メートル。地元東京都は多摩産の杉約45立方メートルを提供した。選手村ビレッジプラザは4月に完成する予定。